

義務教育諸学校（県立中学校及び県立特別支援学校を除く）における令和6年度（2024年度）使用教科用図書の採択基準等

熊本県教育委員会

令和6年度（2024年度）使用義務教育諸学校（県立中学校及び県立特別支援学校を除く）教科用図書の採択は、文部科学大臣の作成する教科書目録に登載された教科用図書の中から下記の基準等に基づいて市町村教育委員会及び国立、私立の義務教育諸学校の校長が行う。

記

- 1 教育基本法（平成18年法律第120号）や学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定された教育の理念や目標を達成し、以下に示す学習指導要領の趣旨に則したものであること。
 - (1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育を充実すること。
 - (2) 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育を充実すること。
 - (3) 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育を充実すること。
 - (4) 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成、並びに学びに向かう力、人間性等の涵養を偏りなく実現できるようにすること。
 - (5) 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくこと。

- 2 「第3期くまもと『夢への架け橋』教育プラン」及び「熊本の学び推進プラン」の具現化を図るため、“認め、ほめ、励まし、伸ばす”という教育行動指標を踏まえ、各教科等の学習はもとより、教科等横断的な視点で学習を行うことができる資質・能力や、平成28年熊本地震及び令和2年7月豪雨からの復興など現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成し、児童生徒が熊本で教育を受けてよかったと思うような教育が実現できるよう、以下の観点について、よりよい内容・記述となっていること。
 - (1) 学習指導要領第2章各教科（各節）「第1 目標」及び「第2 各学年の目標及び内容」、第3章特別の教科 道徳「第1 目標」及び「第2 内容」が達成できるようになっていること。
 - (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るための工夫がなされていること。
 - ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できるようになっていること。
 - ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考える

こと等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できるようになっていること。

③ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できるようになっていること。

(3) 個々の児童生徒の理解に応じ、きめ細かな指導ができるよう、補充的な学習や発展的な学習に関する内容の充実が図られていること。

(4) 生活や職業との関連を重視し、児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観を育むための工夫がなされていること。

(5) 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うための工夫がなされていること。

(6) 生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うための工夫がなされていること。

(7) 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うための工夫がなされていること。

(8) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育を推進するための工夫がなされていること。

3 令和6年度（2024年度）使用教科書採択における注意事項

(1) 小学校用教科書の採択について

全ての教科書について、令和4年度に採択したものと異なる教科書を採択することができること。その際、「小学校用教科書目録（令和6年度使用）」に登載されているもののうちから採択すること。

(2) 中学校用教科書の採択について

令和4年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。

(3) 特別支援学校の小・中学部用教科書の採択について

①小学部

全ての教科書について、令和4年度に採択したものと異なる教科書を採択することができること。その際、「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和6年度使用）」に登載されている小学部用の教科書のうちから採択すること。

②中学部

令和4年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。

ただし、学校教育法附則第9条第1項に規定する教科書の採択を行う場合は、異なる教科書を採択することができる。

4 採択の方法及び留意事項

採択に当たっては、関係法令を了知するとともに、公正確保を徹底し、外部からの働きかけに左右されることなく、採択権者の判断と責任により、綿密な調査研究を踏まえた上で、公平性・透明性に疑念を生じさせることのないよう適切に行うとともに、開かれた採択の一層の推進を図ること。

- (1) 教科書採択に直接の利害関係を有する者や、特定の教科書発行者と関係を有する者が教科書採択に関与することがないように留意すること。
- (2) 市町村教育委員会、国立・私立の義務教育諸学校の校長は、採択に当たっては、県教育委員会の作成する選定資料を十分に活用すること。
- (3) 市町村教育委員会、国立・私立の義務教育諸学校の校長は、採択権者としての立場と責任を自覚し、十分な調査研究を行い、自らの判断で教科書を採択すること。
- (4) 共同採択地区内の市町村の教育委員会は、協議により規約を定め、採択について協議を行うための協議会（採択地区協議会）を設置し、十分な審議の上で、種目ごとに同一の教科書を採択すること。
- (5) 採択にかかる組織の委員として保護者等の参加を一層推進したり、教科書展示会における教職員や保護者等の意見を参考にしたりするなど、より広い視野からの意見を反映させるとともに、採択に関する情報の公開に努めること。
- (6) 採択権者が採択を行った場合、遅滞なく、当該教科書の種類や採択理由、及び採択地区協議会の会議の議事録を作成したときはその議事録を公表するよう努めること。